

東光まちづくり推進協議会 会議録 令和5年度 第2回

会議概要	
日時	令和5年11月30日（木曜日） 午後6時00分から午後8時00分まで
場所	東部住民センター 1階 体育室
出席者	委員（15名、正副会長以外は50音順） 原田会長，森副会長，五十嵐（巨）委員，五十嵐（真）委員， 大城委員，兼松委員，北野委員，國岡委員，幸田委員，澤田委員， 高橋委員，中村委員，本間委員，松原委員，本松委員， （欠席 佐々木委員，玉田委員，中島委員，中山委員，仁田委員） オブザーバー 菊池 地域まるごと支援員 事務局 地域活動推進課 小松主幹 東部まちづくりセンター 鈴木所長，武田主査，道下主査 その他 東光公民館 田丸館長 福祉保険課 鷺塚主査、正木
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 東光まちづくり推進プログラム 資料2 東光地域のまちづくりの推進と運営に係る検討資料一式 資料3 東光地域における補助金・負担金各事業の実施状況

会議の結果内容

1 開会

- ・事務局から，欠席委員の報告及び配付資料の確認があった。
- ・福祉保険課から「【仮称】第5期旭川市地域福祉計画・旭川市社会福祉協議会第7期地域福祉

活動計画の策定に向けた意見の募集」について説明があった。

- ・今年度初出席である新任委員から挨拶があった。

2 検討事項

東光地域のまちづくりの推進と運営について

- ・始めに、会長からこの後の流れについて説明があった。
- ・事務局から資料2及び資料3の説明があり、資料3にある東光（U・D）チクリンピック実行委員会の令和5年度あさひかわ市民まちづくりアワードの受賞については、実行委員に所属する委員から報告があった。
- ・資料1「東光まちづくり推進プログラム」の改訂に向けて、東光地域の課題やそれに対する取組などについて、（A及びB）2つのグループに分かれ、資料2、資料3を参考に意見交換が行われた。

Aグループ

【グループワーク概要】

■市への要望に対する意見

○子育てサロンなど、子育て関係の事業実施時の支援

【委員】

- ・東光地域には児童センターや子育てサロン、子ども食堂などの位置に偏りがあり、遠いところにはないため、歩いて行ける場所にこどもの居場所があることが必要であり、市がやりたいという人の声を取り上げられる体制を常に整えてほしい。

○適切な歩道除雪の実施

【委員】

- ・歩道除雪については、自分の家の間口も含め歩道についても、実施していただいていたが、高齢化により、頼れなくなり、なかなか通学路の除雪が間に合っていないのが現状であり、どうにかならないかといったのが、要望しはじめた経過であったと思われる。
- ・市への全面的に要望しているものではなく、市民委員会や町内会で行うのに補助してほしいといった要望ではないか。
- ・東光だけの問題ではないので、除雪はまちづくりではなく、除雪の協議会において要望や話し合いをすればよいと思う。
- ・まち協としての要望としては、必要がないということで整理しては。

■東光地域の課題・取組・市への要望など

【委員】

- ・啓明でこどもの居場所として、異文化（英語）を交えた日本文化（お茶、着付け、書道）の継承を実施していきたいといった事業をやっていきたいといった声が出ている。

- ・賛同者 3, 4 人が集まっている。世代間交流を含めて実施していければとも考えている。
- ・そういった方は応援していきたい。潜在した知恵をもった人の方の力を借りたい。
- ・ふれあいサロンで特殊詐欺講習をしている。消費者協会に来てもらい、内容を歌にして、歌ってもらって、楽しく啓発活動している。
- ・東光の範囲が広く、活動できる場所が限定している。パークゴルフやウォーキングであればスポーツ公園では、遠い方がいる。ブロックに分けて実施するなどの方法は。周知の方法の工夫（現状：町内会からのチラシ回覧）が必要。
- ・課題を絞って、6 市民委員会と 5 社協等での課題を共通認識として、担い手を増やしていくことが必要では。場合によっては、各市民委員会や社協からの人員を出す等の方法で行って行けばよいのでは。
- ・市民委員会、地区社協、民事協、まち協委員が全て重複している。どこに力点をおいていいかわからない。
- ・市民委員会とまち協の組織の整合性をとってほしい。単独ではできないことをまち協がやるといった方向で整理してほしい。
- ・行政は現場に来て、どのような内容が課題として話されているか知るべきである。
- ・気負いなく子どもも大人も乳児も集まる場所が必要である。

【A グループの発表】

【委員】

- ・まち協の姿がなかなか見えない。
- ・様々な実行委員会で事業を行っているが、参加人数が少ない。PR をどのように行っていくか、人が集まる方法を考えていかなければいけない。事業の精査を行いながら、進化させていけたらよいのでは。

B グループ

【グループワーク概要】

■市への要望に対する意見

○健康維持事業実施時の支援について

【委員】

- ・保健所のHPを確認すると、4つの講座メニューがあるようだ。補助金の交付に関しては、市の予算に関わることで、ここに書いてあるとおり実現は難しいのでは。
- ・メニューにない内容でも、ある程度は希望に沿った内容をやってもらえるのではないか。
- ・どちらにしても、現状で講師派遣の要望等がなければ削除してもよいのではないか。

○適切な歩道除雪の実施について

【委員】

- ・回答に除雪機等の貸出を行っていると書いているが、台数に限りがあり、使いたいときに借りられないと聞いたことがある。

- ・高齢者は自分で除雪機を操作できないので、貸出制度があっても活用が難しい。
- ・市の回答には、「市民ニーズを把握しながら見直しを進めるなど支援体制の充実に」となっているが、どのようにニーズを把握して見直しを進めているか具体的なことが見えてこない。この部分を追記してもよいのではないか。

○町内会加入率を増加させる施策の実施について

【委員】

- ・市から具体的な回答を得たことがない。

■東光地域の課題・取組・市への要望など

【委員】

- ・様々な団体で同じことをしているが、自分が携わる事業以外を理解していない。実行委員会同士の話し合いが必要では。
- ・様々な団体で同じことをしている。被っている事業の整理が必要。まち協は、地区社協、市民委員会、民児協がやっていない（できない）ことに着手すべきと思う。
- ・「シニアいきがい事業実行委員会」で行っている「男の料理教室」での参加者が「こども食堂」への担い手として参加できるよう働きかけしたい。
- ・「シニアいきがい事業実行委員会」で行っているスマホ教室と「こども・みらい実行委員会」のインターネット研修をコラボできないか。高齢者もスマホを操作するようになると、ネットトラブルに遭う可能性が増える。
- ・今年度実施した、高校生が講師となって高齢者にスマホの使い方をおしえる取組はよかったと思う。
- ・スマホ教室は、キャリア事業者も数多く実施している。また、様々な団体で同じような取組をしている。まち協として実施する価値をどう見出すかが課題だと思う。
- ・男の料理教室となっているが、男性のみなのか。
- ・男の料理教室は、上土幌町の男性料理教室を参考にスタートしているが、上土幌町では、地域の主婦が講師として派遣されている。例えば、「漬物」は、作れる人が減っている。こういうものも作る機会があってもよいと思う。また、料理教室で栄養講座も必要なのではないか。

【Bグループの発表】

【委員】

- ・まち協の立ち位置がわからない。
- ・実行委員会事業については、市民委員会や地区社会福祉協議会、民生児童委員会が力を入れないところを実施している。
- ・子どもと高齢者の交流が少ない。将来のためには世代間交流が必要である。こどもみらい実行委員会や啓明では子育てサロンが実施されている。実行委員会同士の対話が必要。

- ・東光地域だけでなく、その他の地域のよいところを取り入れていったらよいのでは。
- ・事務局から、意見交換の内容について整理、確認しながら、東光まちづくり推進プログラムを改訂し、確認をお願いする。又、その他東光まちづくり推進プログラムの改訂について意見がある場合は、郵送又は FAX にて、送付してほしい旨説明。

3 その他

1 第3回の東光まちづくり推進協議会の日程について

第3回東光まちづくり推進協議会は、3月開催を予定し、日程調整後各委員に連絡することとした。

2 電子メール等での各委員への各実行委員会事業の予定・報告の情報提供について

事務局から、今年度2回標記情報提供をしたことについて、各委員の活用状況や今後の方向性について、確認があった。

【委員】

紙で送付したものについて、まち協を含めて多くの文書が送付されるため、文書自体を確認していない。

意見を基に今後の継続や方法について、検討することとなった。

3 東光まちづくり連絡会からのお知らせについて

事務局から、東光まちづくり連絡会から東光まちづくり連絡会委員への文書の配布（令和6年度東光活動計画の策定準備）について説明があった。

4 閉会